

## 中学生が言うことを聞かないのは当たり前？！

### ～原因と対処法を知り自立を見守りましょう～【2／3編】

「小学生の時は、素直に親の言うことを聞く“良い子”だったのに、中学生になったら、言うことを聞かないばかりか、学校の話は全くしなくなった。担任は（中学校では）何を教えて（やって）いるんだ！」と保護者からの苦情（やりきれない思い）が寄せられたことがよくありました。

突然言葉遣いが悪くなったり、口をきかなくなったりと反抗的な態度が見られることも多い中学生の時期。第二次反抗期ともいわれるこの時期の子供たちが、保護者の言うことを聞かなくなるのには理由があります。今回は、その原因と対処法を知って、お子さまの自立を見守って行ってほしいと思います。

言うことを聞かないのは大人になるための準備

小学校高学年から中学生くらいに訪れる思春期に突入すると、子供の体は急激に変化します。体はどんどん大人に近づいていきますが、まだまだ子供。心の成長が追いつかず、不安やストレスを抱えることも少なくありません。

また、自分で考えて行動したいという自我が強まるのもちょうどこの時期です。これは保護者の話をそのまま素直に聞いていた「子供」から、自立した「大人」へと成長している証拠です。

自分で考えて判断し、自分の力でどうにかしたいというのが思春期の子供の特徴でもあるので、保護者の言葉が正しいとわかっているにもかかわらず、それに対して反抗することもあるかもしれません。心も体も大人になろうとしている時期ではありますが、もちろんまだ子供なので、保護者から見ると幼さを感じることもあるでしょう。

- ・体が急激に変化することが不安やストレスに
- ・自分で考えて行動したいという自我が強まる
- ・心も体も大人になろうとしている時期

次回（最終回）は、「保護者の言うことを聞かない中学生への対処法」です。